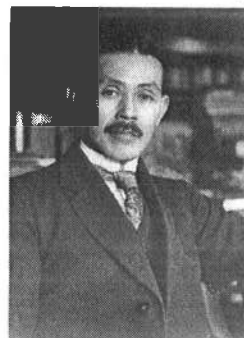


憲政常道と政党政治

近代日本二大政党制の構想と挫折

小山俊樹 著

2012年12月刊行



吉野作造(1878～1933)

A5判・384頁／定価7,350円(5%税込) ISBN978-4-7842-1662-8

近代日本の政治史上において、「憲政の常道」とはいかなる意味をもったのか――

本書では、戦前二大政党論の形成と展開、そして崩壊について描き出し、日本の二大政党政治が抱える諸課題を提示する。戦前日本において、二大政党制の導入に込められた理念とは何か。二大政党制をめざす政治家やメディアの戦略とは。そして政党政治の崩壊と二大政党制の関係は、どのようなものであったか。これらの視角から、「憲政の常道」と日本の政党政治をとらえなおす。

内容目次

序 論 近代日本における「憲政の常道」の意味

I 大正政変期における二大政党論の構築

第1章 日露戦後における二大政党論の形成

――憲政本党と桂太郎の政治戦略(1900～1913)

- (1) 日露戦争前における憲政本党の政治戦略
- (2) 日露戦後における二大政党論の登場
- (3) 大正政変と桂新党の成立

第2章 対外硬派の二大政党論

――憲政促進記者団のメディア戦略(1904～1918)

- (1) 「非政友記者会」の結成と二大政党論の高揚
- (2) 大正政変と憲政促進記者団の結成
- (3) 山本・大隈内閣期における憲政促進記者団の活動

第3章 吉野作造の二大政党論

――大正期の政治改革論における理念と現実(1904～1927)

- (1) 日露戦争期における吉野の「責任内閣制」論
- (2) 政党内閣論への転換と二大政党制への志向
- (3) 吉野の二大政党論と室伏高信の無産政党論
- (4) 民本主義の再定義と二大政党論の後退

II 憲政常道論の形成と展開

第4章 「憲政常道」と「政界縦断」

――大正期二大政党の政治戦略(1916～1924)

- (1) 憲政会の誕生と憲政常道論の形成

- (2) 原敬の「政界縦断」構想
- (3) 政友会政権の瓦解と憲政常道論の高揚
- (4) 憲政常道論の再構築と「政界縦断」構想の崩壊

第5章 政党内閣期の憲政常道論

――総選挙による政権交代をめざして(1924～1931)

- (1) 憲政会内閣期の憲政常道論
- (2) 田中内閣期の憲政常道論
- (3) 田中内閣期における内外政策の挫折
- (4) 浜口内閣期の憲政常道論

III 憲政常道と二大政党政治の崩壊

第6章 「協力内閣」構想と元老西園寺公望

――犬養内閣の成立をめぐる

- (1) 「協力内閣」構想の発生と元老西園寺
- (2) 元老周辺の「協力内閣」工作と西園寺の動向
- (3) 若槻内閣の倒壊と西園寺の決断

第7章 憲政常道の崩壊と元老西園寺公望

――五・一五事件後の政局に関する一考察

- (1) 犬養内閣の成立と鈴木喜三郎派の台頭
- (2) 犬養内閣下の天皇・宮中・元老
- (3) 五・一五事件後の政局をめぐる

結 論 近代日本における二大政党政治の構想と挫折

こやま・としき... 京都大学文学部卒業。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。京都大学博士(人間・環境学)。立命館大学文学部講師などを経て、現在、帝京大学文学部史学科専任講師。主要論文:『「協力内閣」構想と元老西園寺公望』(『史林』84巻6号、2001年)、「吉野作造の二大政党論」(関静雄編著『「大正」再考』ミネルヴァ書房、2007年)など。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	憲政常道と政党政治		本体7,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1662-8
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法					
	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)				
	☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

本書HPのQRコード

書店番線印

貴族院と立憲政治

内藤一成著

明治から大正前期にかけての貴族院を主導し「官僚系」「山県系」などといわれた院内会派、幸倶楽部、及び子爵議員を中心とした最大会派、研究会の動向を中心に分析し、政党研究にくらべ著しく立ち遅れている貴族院に研究のひかりをあてた一書。また同時期の内閣・政党の動向を重ね合わせ、近代日本における立憲政治の実態、構造を探求する。
▶A5判・438頁／定価7,980円 ISBN4-7842-1278-7

近代日本の軍部と政治

永井和著

日本近代政治史の気鋭が「戦前の内閣」をとりあげ「軍人の内閣」というフィルターを通して内閣史に新たな光をあてる。【内容】軍人と内閣 視角と定義／軍人首相内閣論／軍人閣僚と戦前内閣／現役将校の官界進出／政軍関係理論に関する一考察 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令／内閣官制の制定と帷幄上奏
▶A5判・450頁／定価9,030円 ISBN4-7842-0770-8

森有礼における国民的主体の創出

長谷川精一著

初代文部大臣としても知られる森有礼は、大日本帝国憲法発布式典の当日に刺客の凶刃に倒れた。本書は彼の言説や行ってきた政策の目的が、日本国民の主体の創出にあったという視点から、これまで先行研究の大半が十分に検討してこなかった外国語の史料や文献をも利用し、さまざまな角度から検討を加えた画期的な一書。
▶A5判・466頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1367-2

近代日本の倫理思想 主従道徳と国家

高橋文博著

西村茂樹・福沢諭吉・阿部次郎・安倍能成・和辻哲郎ら近代日本の思想家や、修身教科書を取り上げて考察した論文を集成。前近代よりもち越され、主張され続けた主従道徳の存在に着目し、倫理思想における日本の近代と近代以後のもつ意味を考える一書。
▶A5判・332頁／定価5,775円 ISBN978-4-7842-1656-7

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。
▶A5判・364頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1570-6

古井喜実と中国 日中国交正常化への道

鹿雪瑩著

未公開資料をふくむ「古井喜実文書」ほか日中の資料を駆使しながら、古井を中心とした自民党内親中派による国交正常化への軌跡、交渉の裏側を総体的に検証。国交回復から40年、時流に流されず、みずからの信念を貫いた気骨の政治家の姿を追う。
▶A5判・356頁／定価3,990円 ISBN978-4-7842-1590-4

明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した「政治文化」という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。
▶A5判・390頁／定価5,670円 ISBN4-7842-1262-0

※歴史とアイデンティティ

山口定・R.ルプレヒト編

日本とドイツにとっての1945年

第1章 転換の年1945年 占領と官僚制(天川晃) 連続と非連続(J. コッカ) 第2章 第二次世界大戦下の日本とドイツ 第三帝国における青少年教育(N. フライ) 第3章 日本とドイツにおける全体主義の精神的・イデオロギー的諸前提 天皇崇拜(山折哲雄) 第4章 新たな転換点に立つ日本とドイツ 日本外交とドイツ外交(高橋進) など
▶A5判・500頁／定価9,030円 ISBN4-7842-0795-3

※日中戦争についての歴史的考察

明石岩雄著

日中戦争の全面化は、太平洋戦争への決定的転換点であった。またその結果は、日本の対中国政策の破綻でもありとともに、中国市場の全面的開放と開発という、国際資本の試みの挫折といえる。本書は、日中戦争の原因について歴史学から考察する。
▶A5判・352頁／定価5,775円 ISBN978-4-7842-1347-4

※日中戦争から世界戦争へ

永井和著

華北に利権を求める日本。イギリス・アメリカ・ソ連を相手にしてどのような対応をしたのか。日本が世界戦争への道を歩んでゆく姿を明らかにする一書。【内容】東アジア20世紀史の中の日本／日本陸軍の華北占領地統治計画について／日中戦争と日英対立／1939年の排英運動／日中戦争と帝国議会／日中戦争と陸軍慰安所の創設
▶A5判・516頁／定価7,980円 ISBN978-4-7842-1334-4

※象徴天皇制の形成と定着

富永望著

「象徴天皇(制)」という言葉に着目して、この用語の使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明らかにすることで、象徴天皇制は新憲法の運用の積み重ねによって形成されたことを実証する、気鋭の書。
▶A5判・316頁／定価5,040円 ISBN978-4-7842-1492-1

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

明治の地方官・北垣国道の日記「塵海」の翻刻。多くの政治家や実業家との交渉、琵琶湖疏水の建設、東本願寺問題の調停、北海道の開発などの経過を詳細に記録する。明治期地方官の実情を記した第一級史料であり、土木史や北海道史研究の進展に寄与する資料である。
▶A5判・652頁／定価10,920円 ISBN978-4-7842-1499-0

※条約改正交渉史 1887～1894

大石一男著

1888年黒田清隆内閣の大隈重信外相による条約改正交渉から、1894年伊藤博文内閣の陸奥宗光外相による日英通商航海条約締結までの、日本側の交渉戦略・交渉戦術、交渉相手の欧米列国の動向、日本国内における諸個人・諸集団の協力・対抗・競合の側面から分析。
▶A5判・356頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1419-8

韓国「併合」前後の教育政策と日本

本間千景著

第二次日韓協約から第一次朝鮮教育令発布後の修身教科書への影響や教員の養成など、現地における学校教育をとりあつかう。日本の関与に対する朝鮮民衆の様々な対応と、日本側の植民地教育政策がどのような変容を迫られたのかを、多彩な史料に基づき明らかにする。
▶A5判・300頁／定価5,880円 ISBN978-4-7842-1510-2

立憲国家中国への始動 明治憲政と近代中国

曾田三郎著

従来の単線・単純な辛亥革命史研究の枠組みを打開すべく、立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や、省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。
▶A5判・400頁／定価8,400円 ISBN978-4-7842-1464-8

政教社の研究

中野目徹著

「国粋主義」を主唱して明治の思想界をリードした政教社の存在形態を三宅雪嶺・志賀重昂・内藤湖南らの人物像と組織及び機関誌の全貌を検証し、政教社がこころみた実践運動と思想の展開をあとづける。
▶A5判・340頁／定価7,350円 ISBN4-7842-0771-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。